

# 遊休農地解消に伴う担い手の確保と農地集積を実現

たわらもとちょう  
(奈良県・田原本町農業委員会)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他(農業  
委員会の体  
制強化等)

## 【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員13人、農地利用最適化推進委員5人

○旧体制:農業委員18人



## 1 地区の特徴・状況、課題

- 奈良盆地の中央部に位置し、町の東部を大和川、中央部を寺川、西部を飛鳥川、曾我川がそれぞれ北流し、これらの河川にはさまれた平坦地として形成された田園都市である。農地892haが広がっている。
- 農業が盛んな地域であり、奈良県内でも遊休農地・耕作放棄地となっている農地が極端に少なく、土地利用率の高さが目立つ地域となっている。しかし、農業者の高齢化が進んでおり、引受け手になる農家の確保が課題となっている。

### 成果

○新規就農者は、平成28年～30年の3年間で5人就農。

・認定農業者は、53人から55人に増加。

## 2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 農業委員・農地利用最適化推進委員を中心に、次の取組を実施。
  - ・ 農業委員及び農地利用最適化推進委員、関係機関・団体と連携しながら、認定農業者等、担い手の育成・確保に努めた。
  - ・ 地元に精通している農地利用最適化推進委員による地権者への説得を通じ、町内全域に農地管理に対する意識が醸成され、遊休農地の解消につなげている。
  - ・ 推進委員を中心に、担い手への利用集積も進めており、将来的な担い手の確保に努めている。